

穂 穂

おほしたつる君がちからにひつじぼの
いねもゆたかにうちなびきつ
佐藤仁之助先生歌書



昭和十三年（一九三八）春。見たところ一三〜四歳らしいが知能に障害があり親も所もわからない。方言の多い彼の言葉から察知するとシゲルというらしい。自称、繁君である。重度障害であるがクレヨンを持たすと画用紙に色を塗ることが出来る。それはただ混沌とした色彩であるにもかかわらずそこには変な美しさがある。それが綺麗なもので昨年八幡学園の展覧会を早稲田で開いたときに陳列に加えた。今年になってから繁ちゃんの絵には簡単な形が表れてきた。ただなすくつていたのが何やら形らしいものになってきた。そしてますます綺麗になってきた。この画集の表紙の絵がそれで、日本橋区室町角、姓名不詳男児一名として送られてきた繁ちゃんは一カ月後に清君や謙ちゃんを尻目にして表紙の選に入ったわけである。どこかの片田舎に居るであろう繁ちゃんの親御さんは夢想だにしないであろうが。

早稲田大学心理学教室 戸川行男

Index

- 「踏むな 育てよ 水そそげ」～法人近況のご報告
理事長 久保寺 玲
- 子どもの気持ちに基づいた支援を目指して
障害児入所施設 八幡学園
- すべての子どもたちが健やかに暮らせる社会を目指して
こども発達支援センターやわた
- 一人ひとりの個性をひまわりのように咲かせます
放課後等デイサービスひまわり

profile

早稲田大学 心理学教室 名誉教授

戸川 行男 氏
(1903-1992)



- 昭和4年 早稲田大学 文学部 哲学科 卒業
- 昭和9年 早大文学部創設の心理学教室助手に就任。
(後に講師、助教授を経て教授)
- 昭和10年 八幡学園を訪問、特異児童の心理学特性と学園園の造形作品の変遷を研究する。
- 昭和13年 研究成果をまとめ、早大大隈講堂で山下清やその仲間たちを中心に「特異児童作品展」を開催。連日満員の盛況で、多くの人々の関心と呼ぶ。
- 戦後早大退職後は、八幡学園理事も務めた

『踏むな 育てよ 水そそげ』～法人近況ご報告～

理事長 久保寺 玲



令和6年も、盛夏の時期は、連日の猛暑の日々が続きました。

関係各位、本誌『穠穂』読者の皆様には、如何お過ごしでしょうか。皆様には日頃より当法人事業へご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、当法人機関誌『穠穂』を4年ぶりに発行しました。4年間、機関誌の発行を滞らせてしまった事、深くお詫び致します。再発行にあたって、誌面構成などを全面的に改訂しました。

当法人の令和2年度～6年度当初の動きの中から、幾つかの項目を、下記にご報告します。同じ敷地で、福祉型障害児入所施設『八幡学園』を本体移設とし、児童発達支援センター『こども発達支援センターやわた』と放課後等デイサービス『ひまわり』が所在し、障害児支援に特化した事業運営を行ってきたことに変わりはありません。

コロナ禍

感染防止対策には、法人全体で特に力を入れてまいりましたが、全国的感染拡大時期に、入所施設『八幡学園』で計4回のクラスターがありました。[令和3年7月、令和4年1月～2月、令和4年12月～令和5年1月、令和5年9月]

いずれも、職員一丸となり罹患児看護と感染拡大防止に努め、重症者を出すことなく終息しています。クラスター期間中の様々なご支援に深謝申し上げます。

財務改善

平成末頃より、様々な要因が重なり収支バランスが崩れ赤字運営となり、状況改善のため、第1期中期経営計画（令和元年度～3年度）と第2期中期経営計画（令和4年度～6年度）で職員にも理解協力を求め財務改善努力を続けました。令和5年3月末には経営安定のため、入所施設分棟建築



地として維持してきた隣地を、理事会と評議員会承認の下、市川市の許可を得て売却。留保金と当面の修繕の財源を得ることができました。が、今後も大幅な事業収入増が見込めない中、高額 of 各所修繕費が必要です。中長期的展望で財務改善に取り組んでまいります。

修繕

入所棟(園舎)は、全面改築後 17 年、通所棟も落成後 13 年が経過し、建物や設備の各所に経年劣化に伴う不具合が出てきました。そこで、専門業者に依頼し、建物諸設備について、修繕や設備更新が必要な箇所のとりまとめと必要経費の概算見積を行い、第 2 期中期計画期間から計画的に修繕を進めることにしました。高額となる財源を捻出するため、分棟建設構想を断念し、予定地として確保してきた隣地 160 坪を売却、その一部を修繕費としました。分棟構想の断念は苦渋の選択でしたが、入園児や通所利用児達の安心、安全、

快適な生活や療育環境を保障していくためには致し方のない決断でした。一定の財源ができて、令和 4 年度から進めてきた修繕を、令和 5 年度は、喫緊の課題であった園舎空調設備の全面更新を筆頭に、東京都補助を受けての男子棟屋上防水改修など各所の見合わせていた修繕を進めることができました。

しかし、管理棟の屋上防水改修や生活寮内リフォーム、園舎外壁補修、通所棟の空調設備更新、洗濯設備と厨房設備更新等、まだまだ修繕や設備更新が必要な箇所が数多く残っています。

小規模グループケア

『八幡学園』では、平成 30 年度から都所管課に小舎化構想を提出すると共に定員削減交渉を毎年度行い、結果、70 名だった定員が、令和 5 年度には 60 名となり現在に至っています。5 箇所の各生活寮児童数も 13 名寮から 10 名寮とし、更に令和 6 年度からは、内 1 寮を 6 名寮としまし

読者の皆様、ご支援いただいている皆様へ

ご寄付のお願い ～子ども達の安心、安全、快適な生活維持のために～

拝啓 皆様には、平素より当法人運営にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今般、中断していました法人機関誌『稔穂』を再発行しました、コロナ禍の中の最近4年間を含め、平成末からの法人の近況は巻頭のご挨拶でもお伝えしたとおりです。

法人では本体の児童入所施設『八幡学園』生活寮の全面的な小舎化ケアと法人の地域貢献事業の充実をめざし、その拠点となる「分棟」建築構想を第1期中期経営計画の中で掲げ、建設用地は学園と隣接する土地を確保し続けてきました。が、福祉を取り巻く経営環境の現状は思いのほか厳しく、第1期に続く第2期中期計画でも同様でした。補助金の削減や事業運営を担う人材確保のための人件費増などの様々な外部及び内部要因が重なり、分棟建築資金の積立困難な事態となりました。そこで、財務改善を法人の最重点課題とし、職員一丸となりその努力を続けてきました。が、そこに空調設備等の改築後17年が経過した現園舎の建物設備の修繕や更新という難題が重なり、「分棟」建築計画を断念、予定地であった隣地を売却するという苦渋の決断をしました。「分棟」建築にご期待を寄せておられたご家族や関係団体機関、行政の皆様にはお詫び申し上げます。何より、サテライト分棟実現により、子ども達により良い生活環境を提供できなかったこと、申し訳なく思います。隣地売却収入で当面の留保金と修繕計画の一部予算を得ることができました。が、土地売却収入を得ても、高額となる今後の園舎内外の修繕費確保や法人の財務基盤の確立にはまだ道半ばという状況です。現運営事業の大幅な事業収入増は見込めず、新規事業開設のための資金捻出もままならない現状です。

以上の法人の窮状をご賢察の上、入園児童と通所児童の福祉向上のため、ご賛助のほど、伏してお願い申し上げます。皆様の温かいご厚情とご理解が、日々現場で奮闘する職員一同の何よりの励みとなり、また今後の法人事業充実にも繋がってまいります。



アトリエ・オクト
「自画像」
安田 裕次郎
2021年

皆様のご健勝をお祈り申し上げますと共に、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

令和6年9月
社会福祉法人 春濤会 理事長 久保寺 玲

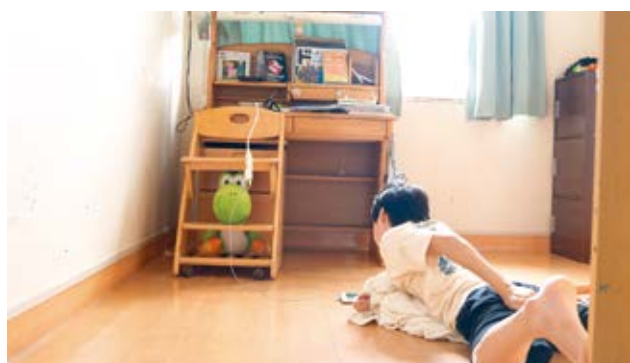
「子どもの気持ちに基づいた支援を目指して」

福祉型障害児入所施設 八幡学園
支援部長 鷲巣徹也

子どもの健やかな成長発達には、やすらぎや心地よさを感じられる暮らしの場と人間関係が必要です。諸々の事情で家庭を離れ家族と別れて暮らすことになった子どもに対して、私たち入所施設は家庭や家族に代わって心身ともに心地の良い暮らしの場と人間関係の得られる場所でありたいと考えています。そのため、生活するグループをできるだけ少人数の子どもと職員で構成することで、快適で落ち着いた雰囲気やその子らしい暮らしが営めるようにし、その子を起点にした個別的で丁寧なやりとりを積み重ねていけるようにしたいと考えています。

現在、6歳から19歳までの子ども達が5つの生活寮（男子年長寮が2寮、男子年少寮が2寮、女子寮が1寮）と1つの施設内ホーム（中軽度男児6名の小規模ユニット）に分かれて暮らしています。部屋は個室が中心で、自分の居場所が作りやすく自分なりの過ごし方がしやすい環境になっています。お友達と一緒にの部屋がいい子には二人部屋（幼児や小学校低学年なら3～4名まで可）もあります。

当園では、より快適な居住環境を提供するため、施設全体の小規模化を進めてきました。以前はひとつの寮に13名の子どもが暮らしていましたが、現在では上限を10名としています。今年度からは生活寮のひとつをさらに小さくして6名にしました。



すべての子に「自分の部屋」があります

生活単位を小さくしたことで、①プライベートな場面と集団場面を個人が選択できるようになり、集団生活の騒がしさや煩わしさが軽減される②食事や入浴等の時間をゆるやかに設定することができるので、その子の気分やペースで行動できる③一緒に過ごす職員が限定されるので、より親密な関係を築きやすくなる④その子にとっての「安心／満足／快適」にフォーカスした柔軟で個別的な対応ができるようになったと感じています。ただし、これはあくまでも職員側の感想であり、子ども本人が感じていないと意味がありません。それを確かめるためには、子ども本人の声に耳を傾けること、表情や仕草・態度から気持ちを汲み取ることが不可欠であり、私たちが子どもを施設の主人公（主体）ときちんと位置付け、子どもとのやり取りに真面目に向き合おうとしない限りは確かめることができないのだと思います。



芝生広場で虫取りに夢中

振り返ってみると、そもそも施設の日課やルールだとか、個人毎の支援計画を決めるのは大抵職員であり、子ども本人に相談して決めることはあまりしてこなかったように思います。そうした中、平成30年から施設内ホームで定期的に「こども会議」を行うようになり、会議で子ども達が意見を出し合って生活上のルールやイベント等について決める試みを始めました。その経験から子ども本人の思いを生活に反映させる取り組みの大切さに気付かされ、集団色の強い生活寮であっても、

個人的な暮らし方やルールがあって当然だという考え方が持てるようになってきました。そこで私たちは、令和5年度から施設全体の重点課題を「子どもの気持ちを尊重し、子どもの気持ちに基づいた支援をする」と定め、子どもの思いや願いを出来るだけ施設の生活や支援に反映させていくことにしました。



趣味に没頭できる時間

すべての寮で子どもから直接話を聴く機会を作ることにはしていますが、面談の方法はフォーマル／インフォーマルに拘らず、その子から聴き出しやすそうな方法を考えるようにしています。しかし、聴く側も聴かれる側も経験不足というよりむしろ初体験に近く、子ども達は目先の願いを口にしたり、何を言ったらいいのか分からないで困っている様子もよく見られました。聴く側の職員は、答えを誘導していないか不安を抱くことも多く、話を聴くことの難しさを痛感しています。それでも、話を聴き放しにせずにアクション（応答）を起こせば子どもからの発信が増えるという実感はあり、そうしたやりとりを積み上げていくことが今の私たちには求められているのだと思います。一方、言葉で表現出来ない子どもやそれが不得手な子どもがいます。そうした子ども達への取り組みは、普段からその子の様子をよく観

察し、その子に関わる職員が情報を持ち寄って話し合うことで、その子の気持ちや思いに近づくことを目標に取り組みました。しかし、その取り組みは思った以上に時間を要し、自分たちの見立ての力不足を感じさせられることにもなりました。



子どもの好み・育ちに沿った食事を考えています

いずれにしても子どもの気持ちを汲み取ることは容易なことではありません。そもそも相手の表現能力の問題というより、受け取る側の姿勢や感受性の強さ、チャンネルの多さの問題が大きいようです。私たちにはまだまだ未熟な面が多いのですが、目の前の子どもが感じている事や言いたい事を少しでも分かってあげられ、その思いに応えてあげられるようにするため、じっくり時間をかけて子どもに向き合っていきたいと考えています。



すべての子どもたちが健やかに暮らせる社会を目指して

こども発達支援センターやわた 統括所長 徳江 美由紀



こども発達支援センターやわたは、令和6年4月1日に、児童発達支援センターの開所13年目を迎えることが出来ました。これも、ひとえに皆様のご支援のおかげと感謝しております。

当センターは、母体である八幡学園の創設者久保寺保久の精神のもと、長い歴史の中で培ってきた障害児支援の専門性を、地域の皆様のお役に立たせていただきたく、平成23年に児童デイとして開設しました。その翌年には、児童福祉法が改正され、福祉型児童発達支援センターとして、新たなスタートを切ることとなりました。

児童デイ時代を含め、これまで多くの方々に利用していただき、事業運営やお子さんの支援に当たっては、ボランティアさんや実習生、様々な関係機関の皆様の協力もお借りしてきました。この12年余りの事業運営を通して、市川の地域の皆様との繋がりが深まっていることを実感しています。

開設当初は、定員10名だった児童発達支援事

業「つくしんぼ教室」も、地域の皆様のニーズにお応えして増員し、現在は毎日15名のお子さんに利用していただいています。私たちは、お子さん一人ひとりがその子らしく、のびのびと健やかに育つための支援に努めています。個々の発達や特性を適切に理解した関わりや環境設定を心掛け、お子さんが「わかった」「できた」「うれしい」「楽しい」という経験を積み重ねることで、自ら「やってみよう」とする意欲を育むことを大切にしています。また、小規模ならではのきめ細やかさで、お子さんやご家族の個別的なニーズにも出来る限り対応し、家庭や地域での生活をサポートしています。私たちは、これからもお子さんの笑顔溢れるつくしんぼ教室を目指していきます。

そして、令和3年には、地域の保育園や幼稚園に通う子ども達が安心して過ごせるようにサポートする保育所等訪問支援事業を開始しました。徐々にではありますが、支援の希望や受け入れ先も増えてきており、インクルージョン推進のため



に、一般施策と連携を図りながら、子ども達を支えることの重要性を実感しています。

地域づくりの一環として、「おもちゃ図書館」の開催も続けてきました。一時期、感染症の影響を受けて、中止を余儀なくされましたが、令和4年度から再開し、地域にお住まいのお子さんをご家族に遊びに来ていただいています。育児や地域生活において孤立感を抱く家庭が増える状況の中、お子さんやご家族同士、ボランティアさんとの交流を図ることは、とても大切だと考えています。スタッフもお子さんの遊びをサポートしたり、子育てや発達の相談をお受けして繋がりを持ち、地域で安心して子育てが出来るようにお手伝いしていきたいと思っています。

この12年の間に、子どもを取り巻く環境は大きく変わってきました。令和5年4月にはこども家庭庁が創設し、障害児支援についても、厚生労働省からこども家庭庁に移管されました。こども家庭庁における障害児支援では、障害児の健やか

な育成を支援するため、身近な地域で支援できるように地域支援体制の構築を図るとともに、地域の保健、医療、障害、福祉、就労支援等の関係機関が連携し、切れ目のない一貫した支援を提供する体制の構築に取り組むとしています。

その中で、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化の拡充として、児童発達支援センターが地域における障害児支援の中核的役割を担うことが期待されています。私たちも、市川市の中核機能強化型センターとして、これまでの実績や培ってきた障害支援の専門性を発揮し、誰一人取り残されることなく、その子らしさを発揮できるような社会づくりに尽力していきます。



一人ひとりの個性を ひまわりのように咲かせます

放課後等デイサービスひまわり 統括所長 徳江 美由紀

放課後等デイサービスひまわりは、こども発達支援センターやわたと同様に、令和6年4月1日をもって、開所13周年を迎えることが出来ました。皆様には、重ねて感謝を申し上げます。

当事業所は、平成23年に児童デイのⅡ型として開設し、法改正に伴って平成24年4月から放課後等デイサービス事業に移行しました。この12年間、春濤会の放課後等デイサービスとして、支援を必要とするお子さんやそのご家族を分け隔てなく受け止め、法人の長い歴史の中で培ってきた専門性の高い支援の提供に努めてきました。春濤会ならではの広い敷地と整備された活動の場に魅力を感じてくださる方も多くいらっしゃいます。

現在は、八幡学園内にある教室と多目的ホールを拠点として運営し、毎日10名の小学生が利用しています。今年度は、市川市北東部にある5校に対応していますが、特別支援学校や支援級だけ

でなく、普通級に通っているお子さんもいます。支援が必要なお子さんも多様化しており、より一層一人ひとりに合わせた対応や活動メニューが必要とされるようになりました。

活動メニューは、お子さん達が興味や関心、好きなことを大切にして、一人ひとりが意欲をもって参加できるものを用意しています。広い多目的ホールでは、サーキット運動やハンモック、トランポリン等で、ダイナミックに体を動かすことが出来ます。天候を気にせず、室内では難しい追いかっこやボール遊びも可能です。教室では、創作活動や教材学習、パソコン、スヌーズレン等に取り組み、中庭では自転車や追いかっこ等をして、思いきり走り回ります。また、休日は公園やアスレチック、博物館、コンビニ、スーパー等の地域資源を活用した外出や体験活動も行っています。



子ども達は、自分で活動場所や遊びを選択し、好きなことをして楽しく過ごす中で、学齢期に必要な遊びや様々な体験、人とのかかわり、地域との交流等の経験を積み重ねていきます。

近年、子どもを取り囲む環境は大きく変化し、人と人との繋がりが希薄になりつつあると言われています。子どもが子どもらしく育つ場や機会は減少し、のびのびと遊べる場所も少なくなっています。このような状況の中で、子どもらしく健やかな育ちを支えるということが、放課後等デイサービスの役割だと思っています。

私達は、これからも子ども達が自分らしく生き生きと過ごせるような活動や環境づくりに努め、「明日も来たい!」と思ってもらえるような事業所を目指していきます。





後援会への援助金は、学園を主とした**法人事業の建物設備の充実**に使用いたします。
 学園で暮らす子ども達により良い暮らしを提供していくためには、生活環境を整えていく努力が欠かせません。各種の設備備品類の購入や整備補修の他、小舎化を推進することをめざしています。そのため、多額の資金が必要です。
 また、地域住宅の子ども達のための福祉事業である「児童発達支援センター」「放課後等デイサービス」、両事業の充実のための運営費も必要です。
 なにとぞ、このような実情をご理解の上、子ども達の福祉向上のため、後援会へのご賛助ご協力のほど、お願い申し上げます。

【お振込先】

振込先口座番号	千葉銀行(0134) 中山支店(014) 普通 3712450
口座名義	八幡学園後援会 (ヤワタガクエン コウエンカイ) 代表 久保寺 玲 (クボデラ アキラ)

- 年会費 一口2千円以上。特別賛助会費ご随意の額。
- 振込の他、現金書留や学園事務所に直接のご持参でも結構です。皆様のあたたかいご支援をお願いします。

寄付者御礼 ～ご支援をいただいた皆様～

令和5年4月～6年8月

令和5年度				令和6年度	
4月	松村 雅美 高野富子様ご親戚 松岡 一衛	8月	平野 和男 鯨岡 智子	2月	平野 和男 橋本 孝 坂井 恵 ダスキン島屋 藤田 郁夫
	橋本 孝 匿名 平野 和男 滝澤 美津子	9月	滝澤 美津子 松村 雅美 平野 和男 鯨岡 智子 渡辺 あけみ		5月
5月	匿名 最徳寺 藤原 永至 石井 光久	10月	江戸川区立東小岩小学校 高野富子様ご親戚 光隆寺 最徳寺 藤原 永至	3月	
6月	二本松 ちづ子 平野 和男 ダスキン島屋 花房 恭子 高樋 克也 松村 雅美	11月	平野 和男 江戸川区立東小岩小学校 市川三本松教会 滝澤 美津子 白田	ホームページ リニューアルのお知らせ!	
	匿名 工藤工務店 堀内 滝澤 美津子 平野 和男 社本 晃明 和田		10月15日より、春湯会のホームページが 新しくなりました。 より使いやすいホームページを目指して、 デザインとページの構成を見直し、新規機能を追加しています。 新しいホームページにぜひアクセスしてください。		

ホームページ リニューアルのお知らせ!

10月15日より、春春会のホームページが新しくなりました。
 より使いやすいホームページを目指して、デザインとページの構成を見直し、新規機能を追加しています。
 新しいホームページにぜひアクセスしてください。



<https://shuntokai.com/>